

天皇制について 本社世論調査

昭和二十年二月十四日近衛公爵天機奉伺ノ際
時局ニ関シ奏上ノ要旨

(藤田侍従長病氣ノ為木戸内大臣侍立 要旨ヲ手記ス。)

近衛公爵ヨリ天機奉伺言上。近衛ハ如何カトノ御尋ネアリ。右ニ奉答ノ後、公爵ハ大要左ノ如キ奏上ヲ為セリ。

戦局ノ見透シニツキ考フルニ、最悪ナル事態ハ遺憾ナガラ最早必至ナリト存ゼラル。以下前提ノ下ニ申上グ。
最悪ナル事態ニ立至ルコトハ我国内ノ一大瑕瑾タルベキモ、英米ノ輿論ハ今日迄ノ所未ダ国内ノ変更ト迄ハ進ミ居ラズ(勿論一部ニハ過激論アリ。又、将来如何ニ変化スルヤハ測断シ難シ)。随テ最悪ナル事態ナレバ国内上ハサマデ憂フル要ナシト存ズ。国體護持ノ立場ヨリ最モ憂フベキハ、最悪ナル事態ヨリモ之ニ伴フテ起ルコトアルベキ共産革命ナリ。

ソラツラ思フニ我国内外ノ情勢ハ今ヤ共産革命ニ向テ急速ニ進行シツアリト存ズ。即チ国外ニ於テハ蘇聯ノ異常ナル進出ノナリ。我國民ハ蘇聯ノ意図ヲ的確ニ把握シ居ラズ。彼ノ一九三五年人民戦線戦術即チ二段革命戦術採用以來、殊ニ最近コミンテルン解散以來、赤化ノ危険ヲ輕視スル傾向顯著ナルガ、コレハ皮相且ツ安易ナル視方ナリ。蘇聯ハ究極ニ於テ世界赤化ヲ捨テザルコトハ、最近歐洲諸国ニ対スル露骨ナル策動ニヨリ明瞭トナリツツアル次第ナリ。蘇聯ハ歐洲ニ於テ其周辺諸国ニハソビエツト的政權ヲ、爾余ノ諸国ニハ少クトモ親蘇容共政權ヲ樹立セントシテ着々其ノ工作ヲ進メ、現ニ大部分成功ヲ見ツツアル現状ナリ。

読売新聞
1942.8.15

第一問 天皇制についてどう思うか
A 賛成者200名とすると
B 賛成者100名とすると
C 賛成者50名とすると
D 賛成者25名とすると

区分	A 賛成者200名とすると				B 賛成者100名とすると				C 賛成者50名とすると				D 賛成者25名とすると				
	総数	比	賛成	反対	総数	比	賛成	反対	総数	比	賛成	反対	総数	比	賛成	反対	
総数	3,080		100.0	90.3	40.5	100.0	90.3	4.0	5.7	100.0	90.3	4.0	5.7	100.0	90.3	4.0	5.7
職業別																	
官吏	1,156	37.5	33.3	4.1	3.1	100	88.7	3.1	8.2								
士族	724	23.5	21.7	1.8	1.0	100	92.3	3.3	4.2								
職工	687	22.3	18.5	3.8	2.1	100	93.7	4.3	6.0								
農林	339	10.7	10.7	0.0	0.7	100	85.9	6.4	7.2								
学生	44	1.4	2.7	1.3	0.1	100	88.3	9.6	2.2								
主婦	49	1.6	1.8	0.2	0.2	100	85.6	7.2	7.1								
その他	101	3.3	3.0	0.3	0.2	100	90.1	2.9	3.7								
年齢別																	
10代	1,825	59.3	54.1	5.2	1.8	100	91.3	5.6	3.7								
20代	1,235	40.7	36.2	4.5	3.9	100	88.8	1.7	7.0								
30代	654	21.2	19.2	2.0	0.5	100	90.8	6.6	2.6								
40代	418	13.6	12.4	1.2	0.4	100	89.9	4.9	3.2								
50代	254	8.2	7.5	0.7	0.2	100	92.7	2.0	5.2								
60代	212	6.9	6.2	0.7	0.2	100	87.9	2.9	9.3								
70代	200	6.5	5.8	0.7	0.1	100	89.2	3.0	7.8								
80代	82	2.7	2.5	0.2	0.5	100	93.2	5.0	1.8								
90代	205	6.7	6.0	0.7	0.1	100	88.9	9.6	1.5								
性別																	
男性	997	32.0	30.9	1.1	0.6	100	96.4	1.6	2.0								
女性	2,083	67.9	69.4	1.5	0.1	100	82.5	4.7	4.7								
政治信条																	
憲法尊重擁護派	418	13.6	13.2	0.4	0.8	100	97.4	0.9	1.7								
改進黨	58	1.9	1.9	0.0	0.0	100	96.6	1.7	1.7								
自由黨	15	0.5	0.2	0.3	0.0	100	10.9	89.1	0.0								
進歩連盟	23	0.8	0.8	0.0	1.1	100	95.8	4.2	0.0								
その他	23	0.8	0.8	0.0	1.1	100	87.9	2.9	18.6								
その他	222	7.2	7.6	0.4	0.4	100	91.7	6.5	1.8								
その他	2,258	73.6	68.8	5.8	5.3	100	89.9	3.3	6.8								
その他	435	14.1	12.6	1.5	0.8	100	89.0	6.9	4.1								
その他	2,645	85.9	77.4	8.5	5.3	100	90.5	3.6	5.9								
その他	1,039	33.7	30.4	3.3	1.5	100	90.0	5.4	4.6								
その他	2,041	66.3	59.9	6.4	4.2	100	90.4	3.4	6.2								

区分	C 賛成者100名とすると				D 賛成者50名とすると			
	総数	比	賛成	反対	総数	比	賛成	反対
総数	685	18.4	4.0	9.1	68.5	18.4	4.0	9.1
職業別								
官吏	264	5.4	1.2	4.2	70.3	18.4	3.1	12.2
士族	153	5.3	0.8	1.9	65.9	22.9	3.3	7.9
職工	130	4.1	0.8	0.6	77.9	21.4	4.3	7.1
農林	10	0.3	0.0	0.0	68.3	17.4	4.3	10.7
学生	2	0.1	0.0	0.0	64.9	23.4	9.6	2.1
主婦	14	0.3	0.1	0.1	63.8	11.6	7.2	19.6
その他	232	0.5	0.1	0.5	68.3	15.8	3.0	12.9
年齢別								
10代	402	12.9	3.3	2.9	67.4	22.2	2.7	4.8
20代	263	5.5	0.7	6.2	69.5	13.7	1.7	15.1
30代	153	3.5	1.4	1.0	72.2	16.4	6.6	4.8
40代	153	5.4	1.4	2.4	66.9	19.6	4.9	8.5
50代	177	5.1	0.5	2.1	69.3	20.0	2.0	8.5
60代	170	4.4	0.7	3.6	65.9	17.5	2.9	13.7
70代	44	1.1	0.0	8.0	68.1	16.8	3.0	12.1
80代	19	0.6	1.0	1.0	70.8	20.7	3.0	3.5
90代	63	1.7	0.6	0.1	63.5	25.4	9.6	1.2
性別								
男性	237	6.7	0.5	1.1	74.1	20.7	1.6	3.6
女性	182	4.5	1.0	0.7	68.2	21.5	4.8	5.5
政治信条								
憲法尊重擁護派	107	2.1	0.1	0.7	79.2	13.8	0.9	4.1
改進黨	13	0.4	0.0	0.2	65.5	11.7	1.7	18.6
自由黨	0	0.0	0.0	0.0	3.6	5.5	89.0	1.9
進歩連盟	0	0.0	0.0	0.0	79.3	12.5	4.1	4.1
その他	171	4.5	0.8	6.0	61.5	15.6	2.5	20.6
その他	1615	4.6	1.5	0.8	71.2	19.7	6.5	3.6
その他	32.0	13.8	2.5	8.3	68.0	18.0	8.3	10.7
その他	9.3	3.1	1.0	0.7	66.0	22.3	6.7	5.0
その他	59.2	15.3	3.0	8.4	68.9	17.8	3.5	9.8
その他	20.8	7.2	1.7	4.0	61.8	21.5	4.9	11.8
その他	47.7	11.7	2.3	4.1	71.0	16.0	3.6	7.4

存続を圧倒的支柱 退位希望も一割余

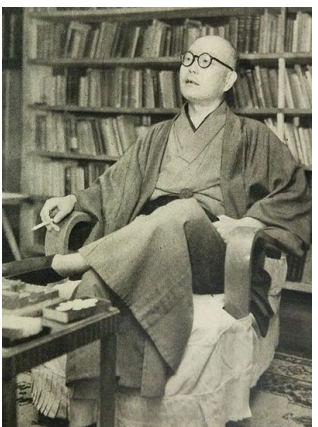
第一に為さるべきことは、今上天皇の自発的退位である……今上天皇が具体的に国政を親裁せられたか否かといふ如き事務上の責任問題は何であれ、国家の元首としての戦争責任は免れざる所に属する。自然人格としての天皇が責任を明かにせられることは却つて宝位としての天皇制を保持する所以でもある。

永い歴史的發展の中で天皇制は自然人格としての天皇を超へた連綿たる高御座の権威として存立し、又民族、豪族、権臣、閥族、封建勢力を超越した公的存在であり、且又非権力的な本質を以て寧ろ文化的精神的統一の象徴として純化せられて来たことを否定することを得ない……天皇は国民崇敬の的となり、文化的中心として有異転変に拘らず連綿として存続し得たとも言ひ得る。而してこの間に天皇制は個人的、階級的、党派的态度を超へた民族の真実の意思の表現として観念せられるに至り、単なる偶像ではなく、寧ろ民族の叡智に依る至高の芸術品として形成せられたのである。

矢部「天皇制と民主主義」 河内 著



近衛文麿



矢部貞治

記者 戦後21年の初頭に当たりまして、いわゆる神格否定のご詔書をお出しになった。

それについては、戦後三十年というところで、米側あるいはわが国の方の外交文書というものが公にされておりますが、その中で、あのGHQの草案があったというような話もいろいろ公にされましたですね。

私が目につきましたのは、陛下ご自身も、何か、そのような詔勅を出すお考えを持っていたというふうにおっしゃったことがあるということですが、そのあたりはいかががでしようか。

天皇 そういふ問題については、批判的な意見を述べることは今、時期ではないと思っております。

五箇条御誓文一伝達が第一

記者 たた、そのご詔勅の一番冒頭に明治天皇の「五箇条御誓文」というのがございすけれども、これはやはり何か、陛下の希望もあったと聞いておりますが。

天皇 そのことについてはですね、それが実はあの時の詔勅の一番の目的なんです。神格とかそういうことは二の問題であつた。

それを述べるということには、あの当時においては、どうしても天澤その他諸外国の勢力が強いの、それに日本の国民が庄厳さるという心配が強かつたから、

民主主義を採用したのは、明治大帝の思召である。しかも神に誓われた。その二、五箇条御誓文を發して、それがもととなりて明治憲法ができたんで、民主主義というものは決して輸入のものではない、ということを示す必要が大いにあつたと思ひます。

それとよく初めの案では、「五箇条御誓文」は日本人として誰にでも知つていふと思つてゐることですから、あんなに詳しく書く必要はないと思つてゐたのですが。

陛下がこれをマツカ、サ、司令官に示したら、こういう意旨なことをなさつたのは感心すべきものであると、非常に賞讃され、そういうことなら全文を發表してほしいというマツカ、サ、司令官の強い希望があつたので全文を掲げて、国民及び外国に示すことになりました。

記者 そうしますと陛下、やはりご自身で希望があつたわけですか。

天皇 私もそれを目的として、あの宣言を書いたのです。

1977年8月23日の記者会見より
(高橋高弘陛下お尋ね申上り文庫、1988年)

記者 陛下ご自身のお気持ちとしては、何も日本が戦争が終わつたあとで、米側から民主主義だということ輸入される、そういうことではないと、もともと明治大帝の頃からそういう民主主義の大本、大綱があつたんであるということ……。

木下道雄 陛下御近日記 45年12月29日

日本人が神の裔なることを架空と云うは未だ許すべきも、Emperorを神の裔とすることを架空とすることは断じて許し難い。そこで予はむしろ進んで天皇を現御神とする事を架空なる事に改めようと思つた。陛下も此の点は御賛成である。神の裔にあらずと云ふ事には御反対である。

資料③ 新日本建設ニ関スル詔書 (人間宣言) 46年1月1日

茲に新年ヲ迎フニハ明治天皇陛下ノ初御聖ヲシテ去歲業ノ御誓文ヲマシ給ヘリ臣等

一、 広ク会議ヲ開シ万般公論ニ決スヘシ
一、 上下心ヲ一ニシテ盛ニ修繕ヲ行フヘシ
一、 官庶一途國民ニ至ル迄客長志ヲ遂ケ人心ヲシテ懽マサラシメテコトヲ要ス
一、 往來ノ艱難ヲ破リ天地ノ公道ニ歸スヘシ
一、 吾國ヲ世界ニ求メ大ニ聖皇ヲ振起スヘシ

御誓文ニ又ハ例ヲ力加ヘン所ハ茲に新年ノ初御聖ヲ開カント欲ス然レドモ此ノ御誓文ニ於テは往來ノ艱難ヲ破リ民心ヲシテ懽マサラシメテコトヲ要ス
云リ民意ヲ察シ官民等皆テ同利主義ニ徹シ救済力ニ又信ヲ築キ以テ民生ノ向上ヲ圖リ新日本建設スヘシ
大小都市ノ繁リタル戦禍罹災者ノ難苦産業ノ停頓食糧ノ不足失業貧乏ノ趨勢等ハ貴ニ心ヲ痛マシムルモノアリ然リト雖モ我國民力現在ヲ試験ニ直ニシテ巨額之額領又昨平和ニ求ムルノ決意固ク克ク其ノ結果ヲ全クモハ
獨リ我國ノミナラス全人類ノ為ニ遠方ニシテ前途ノ展開セラルコトヲ疑ハス
夫レ愛ヲ愛ス心ト固ヲ愛ス心トハ我國ニ於テ特ニ熱烈ナル見ルルヤ實ニ此ノ心ヲ植テシ人類愛ノ完成ニ
向ヒ獻身的努力ヲ効スヘキノ秋ナリ
惟フ一長キニテハ戦争ノ敗北ニ終リタル結果我國民ハ動モスレハ焦燥ニ流レ失志ノ將ニ沈没セントスルノ勢
キアリ而シテ風潮ノ長シテ道義ノ念疎ルル幾ヘシニ思慮澄乱ノ兆アルハ洵ニ深憂ニ堪ヘス
然レトモ朕ハ獨尊國民ト共ニ在リ常ニ利害同シウシテ休戚ヲ分クテ疾苦ヲ同シテ下層等國民トノ間ノ橋梁ニ終始相
互ノ信頼ト敬愛トニ依リテ結ハレシナル神話ト伝説トニ依リテ生ゼルモノニ非ス天皇ヲ以テ現御神トシ日本
國民ヲ以テ他ノ民族ニ優越セル民族ニシテ延テ世界ヲ支配スヘキ運命ヲ有ストノ架空ナル觀念ニ基クモノニ非
ス
朕ノ政府ハ國民ノ誠懐ト苦難トヲ緩和センカ為アラユル施策ト経営トニ力全ク用テ議スヘシ同時一朕ハ國民
力踴躍ニ勵メシ當面ノ困苦克服ノ為ニ又産業及ヒ文藝振興ノ為ニ勇往センコトヲ希念ス我國民万民ノ公民生活
ニ於テ團結シ相扶ケ寛容相許スノ風氣ヲ作興スルニ於テハ能ク我至高ノ伝統ニ恥チサル眞摯ヲ發揮スル
ニ至ラン斯ノ如キハ實ニ我國民人類ノ福祉ト向上トノ為絶大ナル貢獻ヲ為ス所以ナルヲ疑ハサルアリ
一年ノ計八年額ニ在リ朕ハ朕ノ信頼スル國民力朕ノ心ヲ一ニシテ自ラ勵マシ以テ此ノ大業ヲ成就
センコトヲ期ス